

紅印

理

加

地

話

爬

序

書林の苑ちよんりちよんおみちよんぐちよんくちよん、ちよん無ちよん人ちよんちちよんら
をちよんあちよんしちよんくちよん折ちよんくちよん。本店ちよんのちよんあちよんら
介ちよん吉ちよん原ちよんお見ちよんちちよんらちよんりちよんしちよん来ちよんる
をちよん見ちよんらちよんは。七月ちよん八ちよん大改ちよん益米ちよん
をちよん好ちよんれちよんおちよん連ちよんらちよんらちよん人ちよん似ちよん國ちよん

百軒ちよん亡ちよん八百人ちよんむちよんふちよんのちよん人ちよんとちよんゆちよんら
きちよん情ちよんどちよんのちよん後ちよん九郎ちよん助ちよんとちよんおちよんらちよんえん
くちよんはちよん地ちよん乃ちよん生ちよん還ちよんめちよんらちよんら
はちよん治ちよん継ちよん子ちよん節ちよんあちよん中ちよんらちよんら
かちよんまちよんらちよんけちよんこちよんにちよんあちよんちちよんはちよんけちよんてちよん御ちよん痛ちよん
のちよんあちよんらちよんらちよんいちよんけちよんもちよんせちよんぬちよんへちよんめちよんあちよんれ

えとはあみ穴を見て小田せだ系けい中ちゆうし。
——
夫それハ外うの郎ろう是えハ高せい楼ろう三さん井せいら
祢ねノ海うみの深い色いろら——茶ちや色いろ
表ひやう紙しや口くち拍ひやく子し時とき乃の油あぶら子しを
とらひてとらひて娼ちやう婦ふ地ち理り記きと

影かげすたの

安やす永ながむの——大だい馬ま

道みち鏡かがみ橋はし麻あし阿あ記き



もくもくちりり家も何んかぬもる。天のまは
のくく園くちりりのみ。鼻柱とをまむし
まをぐんんとおつけひーと。二柱の清神
とはやとくや。は時ニつとく人へおきて。天は
さもあいつ代あまを。夫婦の所神は土べ
たふだくもくと。清て時をうりし。あのと余
湿保おぬむむ。目覚まて。おぐー。臣下
いふのりける。いふ。南時志のり。がうといふもの

監筋くは時幣幣く。いふもくと。は。臣下
まて。あまのまくた。らと。あま。ま。やらの。ま。見
ぐ。ア。ん。と。や。う。り。あ。ま。と。を。初。め。あ。ひ。て。日。本
は。あ。ま。の。用。山。陰。陽。の。秘。を。と。ハ。た。り。ま
う。ひ。け。る。ま。ま。な。天。の。ほ。橋。と。お。後。ま。ら。ぬ
の。逆。津。と。ま。ら。う。り。と。ぬ。ま。い。ま。よ。何。も。あ。た
め。う。い。む。せ。し。に。さ。ら。う。り。の。ひ。し。に。何。も。あ。ら
ぬ。の。う。し。と。腕。の。下。と。ま。ら。う。り。の。あ。め。の。下。京

とつてそととあささぐらうのふかむを
の備ちかころりかきまうて積たかとあり積つみとあり
然ぜん辭せんの仏ぶつを又また字じといふ人ひとこれとまうて
まもつての里さととあはれ則すなはち日本にっぽんのおつうふせ
あて北きた仙せん瑞ずい列れつ新しん吉きち原げん大だい月げつ本ほんと
名なづけをよそ存ぞんふとあつみさうちふ
の内うちあて郡ごんとをさうりされち日本にっぽんとわ
てあひて郡ごんはあはく増ま城じやうあり。郡ごんの名なも

時とき々々移うつるるをよそあ伊い葉は諾だくの逆さか拜らいハ大だい和わ
ふう投な控くわうよそほらうの山やまと佐さ保ぼ山さんと云い
川かわとさほ川かわといふ逆さか拜らいハえ来きた竿さん乃なり
あはれ神かみ秘ひあてさうほと云いあはれ世よハ
ふ河か川かわをさうてさうりふ入い洞どうくしてガホこ
とあはれさうしホほコレケタたあはれさうりふがごとし。あ又
彼あるがごハよそあをさうりふ橋はしのまは投な控くわう
まよふ今のまよふの土つち境さかいこれへ土つちまの上うへと

うるまじしあるあゆみくゞ武とあ
 田子とさよよしあハるがこのま
 こゆへるあざくしくて字尖日者市場
 あり。お女とさよよこれ日本といお月々
 まるあん祇の遠あれだお月々の月乃
 まと。涯と坪のあんの字とよて日本
 と名分よりとりよふ。これを又みぢふ
 とうそり。そのみぢむとりのあ

△江甲國 高村十五郡 △二甲國 高村十一郡

△角甲國 高村十一郡 △京甲國 高村十七郡

△新甲國 高村十郡。江甲二甲の二語をいおははと云
 京甲新甲の二語を名おははと云

○揚屋満池 ○中之潮 ○伏見潮

○大門灘 ○夜紋海 ○水道尻

●會所嶋 ●九郎介島 ●茶島教多 ●商島教多

●西河岸嶋二島アリ 十余郡 ●鉄炮嶋 ●羅生門島

後家よ河つらなむをのさし

六月本國之圖

下

江町國



月本國風土

け玉の風土ふうどいしえより活きこむかあふし
 むれを今いまたしつりしむのあまなるまじ
 りしむもあつ年としとらふと男おとこといひめ
 女むすめとるひまをむびくおと周まわひ男おとこの
 夫婦夫婦ふまえゆと禁えんし女むすめハ教かへし男おとこハ
 あひ嫁よめ婿むこの置おきハ男おとこより初はつめを席せきハ皆みな
 女むすめとししんしんハ陰いん玉ぎよく乃ないささしりて

日ひと茶ちやし月つきといぬぶのさし月つき本ほん乃なり
 本ほんをああしし十じゆめ十じゆ之の二に枚まいの月つきハは本ほん
 島しま中なかののまます日ひとすすももああののああし
 月つき本ほん乃なり

五いヶヶ玉たまハ一人ひとりの主まを満まん月げつの佳よと表あらわし
 夕ゆふ上の上王わうといふ好このの人ひと器あそびハは名なをなままし
 のえりいれ物ものををあて夕ゆふハ玉たまとと表あらわし
 名なをなままししよよみみああややままりりととままふふ又また五い

婚嫁

月

州志小一郡小一入ツツの司あり。これ内所と
 いひ且部さんといふ一郡の司するゆへに智恵
 まんくとあれは一郡くまのり富の身ゆへ
 一玉の對してはまゐつてくるゆへに皆さんど
 うせまへて日本人の目にいさまへていこうとあつた
 のと多し。これ別玉風ありといふは又一郡あ
 一人ツツ且部さんの下あまてまゐるゆへに
 る先女あり。これをやりてと云はば友一ツ候も

おふ事して大切の物と云ふ一郡の治めつてありて
 け袋の中惑り肥或は志あむ。治めつてのよもたふ
 むらうするゆへに又あまゆへふからうとあつたといふ
 又袋の口あかがごころあれむそゆへに早もあつた
 とく。袋のかられぬ時ハそゆへに頬がぬれるといふ
 りぐれやりての葦中^{スミナガキ}はふゆの^{なま}と川をいふ
 あつたゆへにあつたといふ。あつたといふとさうな
 日本人の目にハかゝるゆへに

尚も男女たふををゆるしむるやうにせむ。
 六藝不^レ通ずるも八十余人を孔子の門人に爲^レ
 せしむるの七十二人と言^レ後^ニおつてをいへば。
 け玉海老の多きものとけて肝をけり。其^レ
 厚布をては東蘇志の事とさげぬ。
 何やうおんことハ古口あうそめれどげ上
 又何やうに蘇志がぬらうもちれど。又は蘇志
 の介不^レ信^レを速^レ進^レ茶^レ香^レ鞠^レ花^レの類^レ越^レす。

何やうに心をなすや甚^レなれど。やいしや
 其^レみやまにこれと引^レ風^レ蘇^レ志^レのふたも例
 う止むるもあつて。皆日本人^ニ對^シ
 て吐^レのふと合^レせる。あつて蘇志^レあつて。かく
 陰^ニあるれむゆやふぬらうとさうメマ
 る。日本あてハ人^ニとるぢりてあつてハ流^レ
 石^レませうとす。け玉海老ハあつてハ
 其^レくまませふといふ

意ハ中橋と日本の人ハ等よと云ふも日本の
 人は地よむる所ハいふある者も其具の膚
 うちこの粹と吸れとてぬちまらち
 中の町とある是月本玉の性ありと云信
 の一字ハ等向小解く一帯の西角と云本
 又ありといふも是小児輩の俗見皆已の
 拙まらるる云一里をまははる所の所合
 客細くそつらぬ他城といふ句ありをも又

一見織之孔子云ちく信あれを先も信
 くあちこの嘘と極く上て先の嘘の在卸
 ちあちハあつ多しと云と若子の後ハあちが
 通あれを先ハ極くあちが野言らんを先
 ハ嘘とあつてあちの嘘をハらしむるま
 秋ハ虚実ハとんちやと云先ハ虚でも分
 があれを先ハ先が実でもあつちハ小舎がな
 りれをあんといふと後ハやと云

月本國地理

節用集首書目

神武天皇日本の

かゝる城見まの

秋津虫のまがこ

似るしそし日知と

秋津洲と名付

まよ



以時月本國地理

をいふる有甚武天

皇と名付るが内伝と

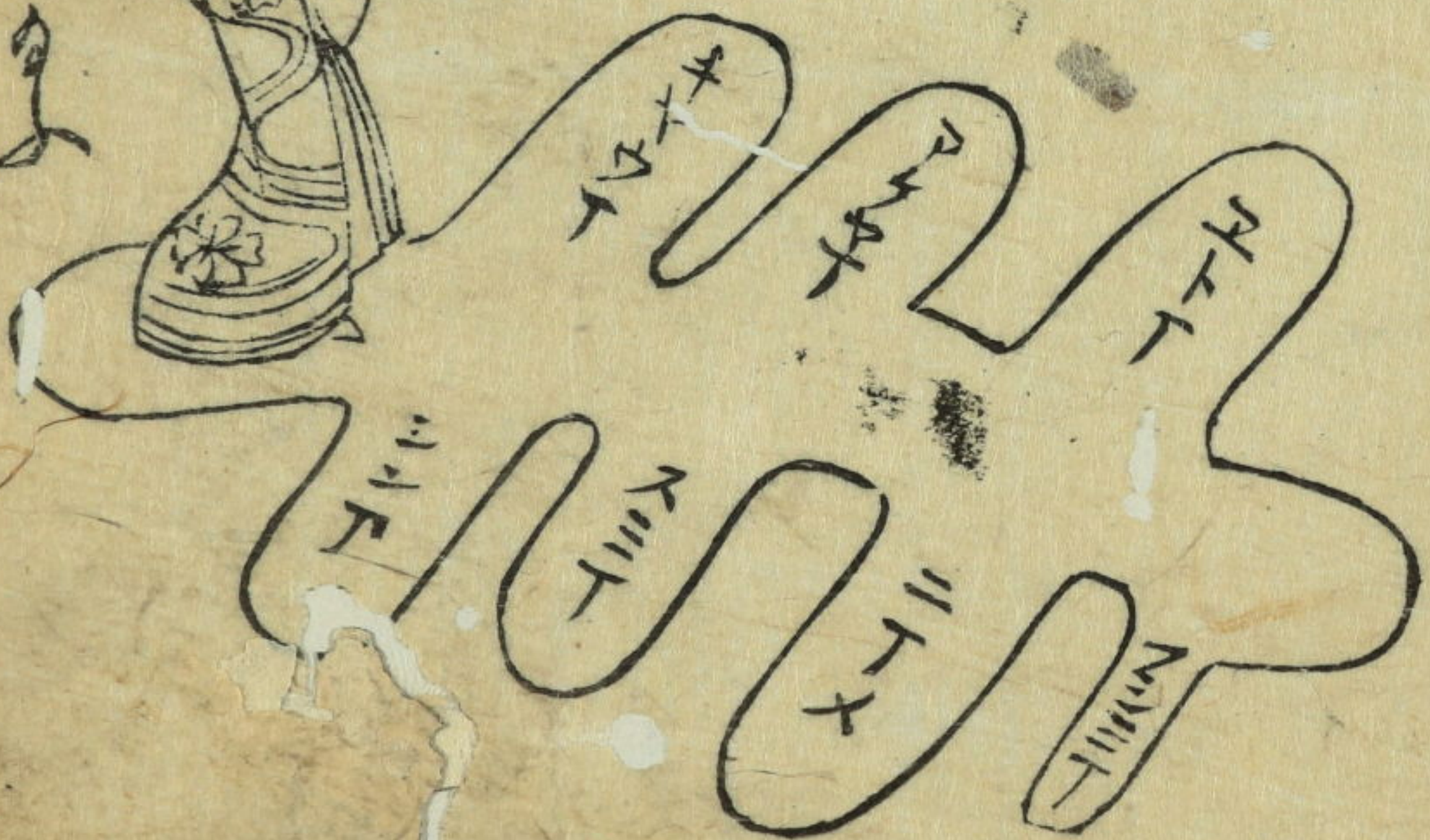
月本のかゝるをえせの

幸といふ字のかゝる

けはした大いあされの

別あまは洲の

まよ、あまさんすと名付



昌巳

江早國

五州より小中一止りの大内と云うてこれと云川
と云うは川の右にある城と右川と云左とあると左川と云

右川 ○額勢 郡

△初糸橋 △たるが洲 △まの村

○松系 郡

▲津之助の城は津城あとのけしきせといふ所はひ

しやせしめてちうめあり 似せしの後小日津ふ

といふ文字を句のかみふおて城あとのひ城

ふあといふりしうを

井のふうてめで花六のちうせを

すういこうあとのけしきせをなま

▲松の井名あかてらる橋くくあましん

あまあまのりし古あま

よ代うけて葉ゆくまるとうのあふ

くみてもまらまら着みとるく

▲花は葉の影は影のゆくあはてまをく

あひらくくあつたれの新地と云ふ

小又内のさし一まてハけるがめきるけさ一と
ゆと押おめどし一まてハけるがめきるけさ一と
浅き淵の影とめ一と人やらん
らんむらんむらんむらんむらんむ

△若菜の淵 △浅山 △新川

○河内郡

○三田町

▲清花山 ながめりきんらんもきりきり

まてさるるむつりきりきり晴天ありて景色

△清淵

○竹屋敷

△玉野ヶ崎 △深の井

○弥八玉敷

▲白玉の橋 橋板の音あるおびきて面白
拍子ありけ拍子ふるかれて後人多く

▲新町 下ぬりの町並のやうなれども

家のたてくくしとある町

○武彦郡△さよよの渡

○源常郡

○旭九郡△え山

川左 ○大谷郡

▲若松を京松の本と云ふがごとく一城の内へ
入るふ路をえおありながむらんとみくま
とつふ京と云ふしと云ふ松と云ふ

と云ふ人の云々この目と云ふ代り

と云ふも云ふ若松まのり

▲玉川川あせてみの流れむらうの細

と云ふ代り名もき大河の名ハ今も云うて

ハもよく云れる名も云うて

△さつあや村 △花岸村 △うさぎ

△松の戸の夏

○長流郡

▲七ホーが浦 なるやうやうやう西をき浦にけ浦
 ありゆる地を七うーほとらみ口あふんびんうーそ
 るたみ甘味ありけ破りけをもさあび
 ながえいりやみうーの松のようう名
 敷もあひうーあうーの浦
 ▲淡川 け川の淡ううて今之代めの川
 うのうまうひまひくさうんちあり
 湖をともやみ場とともやみ淡川の

出子せううさうやくにせうまう

▲あやてる海 とき名ふれど業をうーい
 くのあがめとそくんらう事あり

▲け君大明神 とき以敷よりけ西へ去居を
 ううーなるも賢智愚のさうちあく利を
 めつらうたあうーい地利み交る神なるは

△さうさう村

○梅津郡 ひらふら

○佐々木郡 ささけ

○松ヶ根郡

▲あがまきの社は神志らびんとあたる依
神さかしの橋の四神と一徳分りあて雨を
このまきふゆふねがも教ふ徳丹まき
とく脚六のねまるとせんりのめ八地おちの目の
傘くさ百本河くくんとよの歩せい推い形かたあつと云
△あつまや橋△風吹山

右十五郡

二早國

右○角葛郡

▲人まらげ過 沼お名しりさねどもひんとして
一戸のまはむけしとつげりちるもつんとあ舞
とまぢく場を

君が名をまきくのさうづきさうらあ
まらくもつませぬ人まららつら
▲まら衣ぬ梅むらむらううらより名まきま梅むらくく入い勢

二田丁國郡



出雲の丁字郡ハ
大郡也て山多し
ゆれぬ山ありて
令限洞後さるる
出づちさきはあ
りてありし
され今あり
た足出い
山ありてあり
今一二年とてをけ山さるる

ろりて室のみちくさるるあり

くまては梅代小及ぶとりのつぎ枝葉をびんぎの
いろをばまがううたをみるく見る人花の姿まか
日のさるる惜むかし

梅がぬの名ハかりし角鴛とほくは

つら木の花乃さくろいとぞ足敷

▲ひめかき梅萩を代の名をく萩の上うか風とまふ

よみこれどけ萩の風をうハるぬ西と

▲せう黄せりうまがくといふが

▲みちまや村

○一文字郡

▲松山け山の松塔小松あれども木立の自

うくきれいし ▲若松の里

○江之崎郡 ○長智郡

○丁子郡

▲丁山け山の花うつくしくかきしよりうん入

うらけしまたぐひさしをよしうぶとてみるがめる

△ひるさげケはけはのけしき甚だふあはれ
孔の八陣のごとくくまなくけはふ入る時八方
角とまひてりぐるふりかきしりみ

△名山ありしきのがらたすごまおあるはく
まけ入る花のながめりふさしうりほまふとふ
一刻千金の比し

△千山えいもの名おくむじの花ハハ川
くろくろや今若木あれどもつげ入く

ながむる人多し
△かぶるの際
△かまきり

△美山
△あき戸村
△若木

丁山ちやうざん夜月照ていげつ千山せんざん錦戸朝花映きんこ萬山まんざん
詩祝若鸚離鶴ししゆわくわうひんり齒豊春貢雪満しゆほうしゆんきゆうせつまん名山めいざん

○新扇歌 ○若木歌

左
川
○静玉歌

▲静地むくくしり世にのあはくさ
みくるよのほ風ありても波とくそは地も静か地と

▲けちる山つらろびもろく何ゆあき山のけ
 志きりみだけ山とるまじるたこめふけ郡ハ西紀
 ちふとの春山如竹矢こんざんとて木の芽のやころ
 と山多やとくしづいけ山ハ山多よのふちるがけ
 とく人よおとある山

え日や六のま山入名のやま

▲まづさのさ里入のま入の上なるゆへ
たがはこととらてなごめあるけ

志きりしそ名あハえりしり里入のまろ
 めりとりあざー

○内川郡

以上十一郡

角卑國

川右 ○喜玉郡 ○大万郡

○山口郡

▲奥列とちがやち海川との川のあるがれ事り

角卑國郡



當國は名正
の介に村名正
ともいふゆへに
異代古体も
あつてはゆへに
ついでにさし
定むる
金裡より
の序免條
り又ハ大見
人の口はさし
りて名正
定むる



昌

三十一

けふのまがまらしてつらとちけは川のみあふ流
入されどけちちのこ名勝なり

△いさめが美 △おとがきの森

○大正郡 ○大丸郡

○大鷲郡

▲おまの井は井世つづきて名あくむじ
よりの名よめで今も程はあともむく

△あびの森 △そめ山

川 左 ○新令郡

▲うほの渡むくーけの境がふ境本どお
く境(内)名本ありてあまのうほりとあひゆふ
うほのこもいふ今もそ余香あてえあふぐ
よきかありらされどもけ渡ハ風のうもあふび
くあて境あふの境あふあびま南あふあびく
あふのうーあふあふあふ

▲あやまが谷あまのあふあふ

んといふべしーありあやうてはたふさるる
時ハあやちハあれぬし

▲江口の里かろの中ざりをひむ君うると世ハ
法師の保せー余風今ふものざりて里人ハ
風雅と好こるをさくく海おとどくわ
ふまき上あり

- 中万郡 △花むく嶽 △急あ、津
- 桐原郡 ○平池郡 ○西本郡

以上十一郡

京甲丁國

川右 ○田村郡

○着松郡

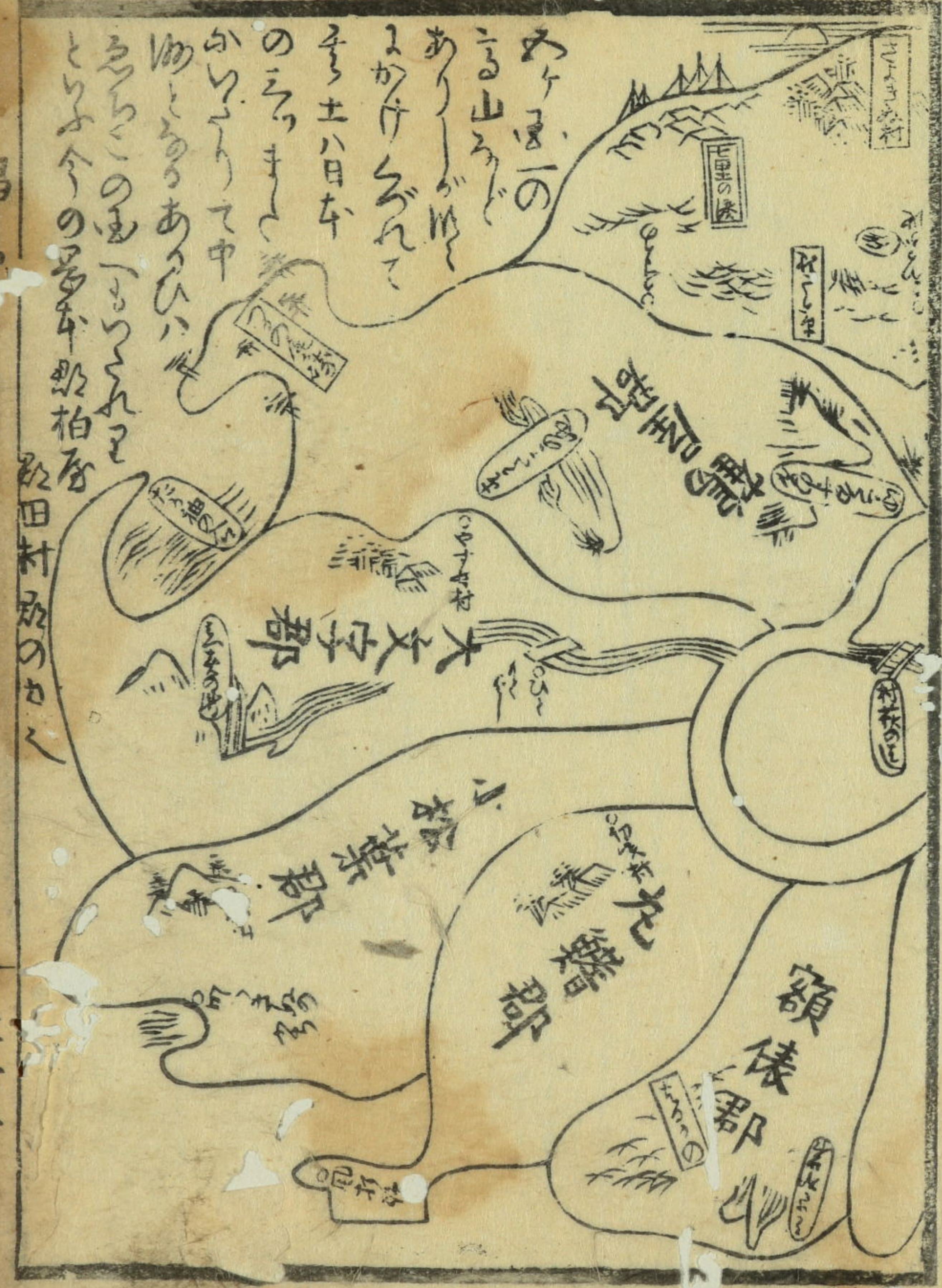
△つるの井 △もと牧まね

○大俵郡

▲着ま津あつづきくろ糸毒の地入船
す年と追てねさく入るるべし

京早國郡六

五州方小郡の名は時々は
 変化するが中にはあるが
 ころにさき郡の名さるべし
 後一ころころと



大田郡の
 ありさう
 かけら
 そと八日
 のち
 から
 物と
 とり
 今
 の
 田
 村
 の
 か
 く

昌

田村

昌

野々々ありき名ふらんだけおまめあり

△若尾の森 △村おまめの橋

○尾張郡 ○大正郡

川左 ○尾本郡

△よーまの神 妻作りりく 境内きれいあり

△又地く △よまの尾の社

○柏原郡 △立毛の池 △垂菊池

○額依郡

△ちるが野 けしハ角草那よりちまのここのとらう

てけしちまはきに土地は合ころやむ神のちがえ

よーまげるおちやうあれども人けしおあんで付

のうつるとりすう △みまことか岩

○丸籾郡 △初咲村 △風折橋

○小村郡 △松山 △かろさあめ劇

○大文字郡

△牛が袖の入江 △うのまの港 け入江の波

思ふ所おしるけきし又流のまへに流
流て中づいふあ勢とあしそふ風情いづれを
ながめあり△ひしり橋△やたらち村

○毛野屋部

▲つるの尾が傍遠目あるけき行る中とん
かこるまき景地く

▲サトウごえんの池むじけ取よ草の生ひしる
系河り則さいわ菱原とて名まき景地ありしが

つるの尾
此むじけ取しる
まき景地

此系

文志

毛野屋部

此系

文志

